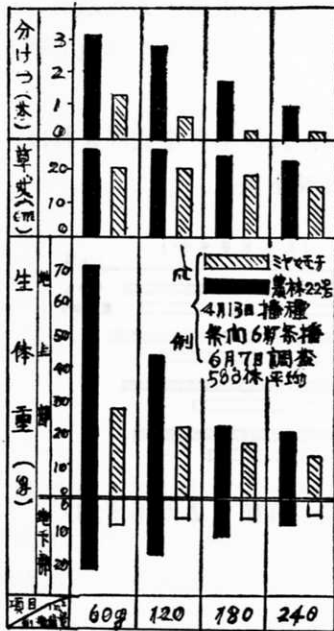




第1図. 陸稲移植早期栽培の苗床播種量と苗の生育

栽培の施肥標準の5割増肥とし、畜力・機械力の利用でできる45～55cm畦に株間6.0～6.5cmの1本植えが妥当と考えられる。

その結果第2表にみられるように本圃で45cm畦と60cm畦との間及び千鳥植えと1条植えとの間に著しい差はみられなかった。

標肥及び5割増肥とも単位面積当りの株数を多くして、1株本数を少なくした方が収量の高い傾向を示した。

従って一般的には苗床1m²当り150～180gの条播で、本圃は直播

第2表. 陸稲移植早期栽培の栽植密度と収量

a当り株数	標肥 a当り 玄米重 kg	比率 %		a当り 株本数	a当り 株間 cm	a当り 条間 cm	1株 本数	標肥 a当り 玄米重 kg	比率 %		増肥 a当り 玄米重 kg	比率 %	
		50	100						50	100		50	100
3000(60×11千鳥)	20.8			3600	6	3600	1	40.5			44.3		
6000(60×5.5千鳥)	18.3			7200	6	3600	2	34.5			41.7		
3000(60×5.5)	19.0			3600	12	2400	2	35.2			37.1		
6000(60×2.7)	18.3			7200	12	2400	4	33.4			34.0		
3000(46×7.2)	18.2			9000	12	2400	5	28.9			32.7		
6000(46×3.6)	18.8												

注: 1. 苗床 4月10日1m²当り120g条播。
2. 本圃 5月23日1株2本植え。
3. 供試品種 農林22号。
4. 昭和31年。

注: 1. 苗床 4月15日1m²当り150g条播。
2. 本圃 5月25日畦間45cm。
3. 標肥 a当り
堆肥113kg・硫酸23kg。
過石38kg・追加0.8kg
増肥は標肥
の5割増。
4. 供試品種
農林22号。
5. 昭和32年。

3. 摘 要

寒冷地の陸稲の移植早期栽培の播種量・栽植密度について検討をして、次のような結果を得た。

1. ビニルトンネル育苗の実用的な苗床播種量及び播種様式は1m²当り120～180gの条播で、苗床面積は1a当り1.3～2.0m²が適当である。

2. 移植早期栽培は直播栽培より増収が期待できるので、直播栽培の標準施肥量の5割増肥とし、栽植密度は畜力・機械力を利用し得る45～55cm畦に、株間6.0～6.5cmの1本植えが実用的と考えられる。

水 稲 オ イ ラ セ の 畑 移 植 栽 培

上 野 司 郎・佐 藤 亮 一

(青 森 県 農 試)

1. ま え が き

寒冷地陸稲は早害に加えて冷害をうけやすく、作柄が不安定なためその作付が限定されていたが、開拓地や水田の少い農家からは主食自給の立場から作柄の安定化が強く要望されて来た。

これまでの水稲の直播や陸稲品種では要望にこたえるものが少いので、耐冷性の強い水稲早生品種「オイラセ」を用いて移植栽培試験を実施したところ、一応所期の成績を得たので報告する。

2. 試験方法の概要

1. 試験年次

1957～58年。

2. 試験地の概要

(1) 青森県農試(黒石)

下層に礫を含む洪積土壌で地下水位約1m、気象条件

良好。

(2) 青森市雲谷

標高200m、火山灰性土壌、気象条件比較的良好。

(3) 上北郡甲地村滝沢平(開拓地)

標高50m、太平洋岸から約10kmでやませの影響をうけやすく、夏季冷涼。

(4) 黒石市南(開拓地)

標高400mの準高冷地、気象条件不良。

3. 供試条件

(1) 品 種

水稲オイラセ・陸稲農林22号。

(2) 栽培法

区分	栽	培	法
直播	畦巾54cm. 播巾15cm, 播種量450g/a.		
移植	畦巾54cm, 株間6cm, 条間12cm, 2条千鳥1本植え.		

(3) 施肥量 (kg/a)

年次	堆肥	成分量		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O
1957	112.5	0.560	0.650	0.380
1958	112.5	0.380	0.750	0.380

(全部基肥として施用)

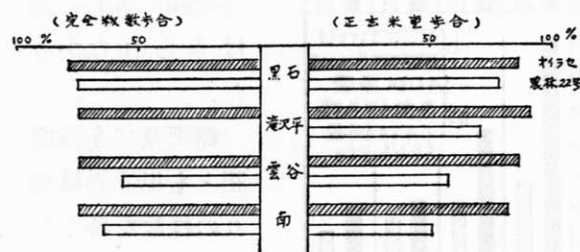
3. 成績概要

第1表及び第1図のとおりで、次のように要約される。

1. 移植栽培は直播に比べてオイラセ・農林22号ともに出穂・成熟期が7~10日早まり、稔実歩合が高くなり、玄米収量は10~30%多くなる。

2. オイラセは農林22号に比べて出穂・成熟期がさらに5~6日早く、収量が高い。とくに環境不良地で著しい。

3. 移植労力調査の結果は、ねぎ植え様式によれば、10アール当り35時間程度に軽減出来る。



第1図. 稔実歩合の比較 (移植・2カ年平均)

第1表. 生育・収量調査成績

品種	試験地	年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	成熟期における			玄米収量 (kg/a)	同左対 直播比	同対農 林22号比
							稈長	穂長	50cm間 穂数			
オイラセ (移植)	黒石	1957 58	4.9 4.15	5.22 5.26	8.7 8.2	9.10 9.16	88.4 78.9	18.8 18.6	156.8 173.3	34.6 40.4	132.8 —	100.3 101.3
	滝沢平	57 58	4.25 4.15	6.8 5.26	8.20 8.14	10.10 9.20	58.0 54.6	18.0 15.3	70.9 131.2	17.9 22.9	128.4 131.7	— 181.7
	雲谷	57 58	4.24 4.16	5.30 5.28	8.13 8.8	9.30 9.20	73.5 62.2	19.3 16.6	146.9 176.6	37.4 32.1	157.7 135.6	119.9 166.3
	南	57 58	4.25 4.16	6.10 6.5	8.18 8.12	10.8 10.1	60.2 55.0	18.5 16.2	66.0 141.4	18.1 20.3	— 198.5	177.4 —
農林22号 (移植)	黒石	57 58	4.9 4.15	5.22 5.26	8.10 8.8	9.15 9.25	100.4 87.8	17.6 17.0	165.0 124.8	34.5 39.9	127.6 119.6	100 100
	滝沢平	57 58	4.25 4.15	6.8 5.26	9.4 8.20	— 9.24	— 48.9	— 14.8	— 105.0	— 12.6	— 155.8	100 100
	雲谷	57 58	4.24 4.16	5.30 5.28	8.21 8.16	10.8 10.1	79.3 65.4	17.0 16.9	171.6 158.4	31.2 19.3	240.4 116.0	100 100
	南	57 58	4.25 4.16	6.10 6.5	8.27 8.26	— —	67.3 52.3	17.4 15.8	69.3 81.8	10.2 —	— —	100 100

4. むすび

水稻オイラセの畑移植栽培により陸稲作柄安定の見とおしを得たが、オイラセはその多収性にかかわらず、くびいもち・ごまはがれ・早害などにやや弱い傾向を示したので、これに代る早熟耐冷性陸稲品種の出現が切望さ

れる。

現在では、オイラセ以外の陸稲品種は海岸冷涼地や準高冷地での栽培が危険であるので、オイラセの移植栽培を1959年から普及奨励し、開拓地で急速に普及している。